

地球大気取り巻く環境問題

あれは高1の時。新聞で、成層圏オゾン層破壊の問題を知った私は、「何とかしなければ！」と危機感を抱き、大気化学の道を志すことになった。大学・大学院では、オゾン層破壊物質である大気中ハロカーボン類の微量分析法の開発を行い、オゾンホールメカニズム解明でノーベル化学賞を受賞した故ローランド博士の研究室とともに研究を行うに至った。

凛としていきる

理系女性の挑戦



人生で大切なものを見極める

暖化（気候変動）や大気汚染など、地球大気を取り巻く環境問題はまだまだたくさんある。現在の地球大気の組成は、太古からの生物活

動の蓄積であり、その微妙なバランスはさまざまなことで簡単に崩れ得る。大気中微量成分の挙動を把握して、そのバランスを守るのが私の仕事だ。

例えば大学以来、男女の比率がかなり偏っている環境で過ごして来た。研究室やフィールド

ワークで女性1人と、ということもざらであった。兄と弟に挟まれて育った私は、辛いそんな環境でも特に違和感なくやってきた。しかし、就職してしばらく、頻繁に海外を飛び回り、観測期間中は毎日のように航空機に搭乗して大気サンプリングを行っていたところ、突然、身体の不調が襲った。婦人科特有の重い痛み。薬を使わないと起き上がることもできない。将来、子供を持ちたかった私は、もう少し落ち着いた研究環境を探り始めた。

その後、同じ大気化学でも、データ解析やモデル計算へ手法を委更した。最初は苦労したが、現在は、観測とモデルをつなぐ立ち位置を築きつつある。その過程で同業者と国際結婚し、2人の子にも恵まれた。昔の仲間が今も観測で世界を飛び回っているのをうらやましく感じる時もある。

白井 知子



家族で参加した国際学会の帰りに、米カリフォルニア大学の実験室にて。左はBlake教授

だが、今、育児と仕事の両立で目まぐるしい日々を送りつつも、心が充実しているのも事実である。多くの女性が悩む30代、自分の人生で大切にしたいものを見極め、必要に応

じてかじを切る時期と感ずる。

△国立環境研究所 地球環境研究センター 主任研究員  
▽企画協力・日本女性技術者フォーラム（JWF）

△今プロフィール△東京大学理学系大学院博士課程修了後、宇宙開発事業団（当時）、米カリフォルニア大学アーバイン校を経て、現職。大気化学研究のほかデータベース開発も行う。博士（理学）。JWF個人会員。